

昭和53年10月31日発行 編集・発行 図書館学教育部会

## 第10回図書館学教育研究会開催さる

第10回目を迎えた本年度の図書館学教育研究集会は8月19～21日、山梨県富士吉田市の人材開発センター富士研修所で「図書館学教育をどう進めるか」を総合テーマとして開催された。

出席者46名、近来にない盛会であった。

第1日目(19日)午後、受付、開会の挨拶、オリエンテーションに続いて慶応義塾大学法学部助教授市川統洋氏の「プロフェッショナルリズムの性格と問題点—図書館員のプロフェッショナル化について—」と題する講演があり、活潑な質疑応答がおこなわれた。なお、夜は夕食を兼ねて懇親会があり、楽しい交流の一刻をもった。

第2日目(20日)は、午前、久保輝巳(関東学院大学)、古賀節子(青山学院大学)、深川恒喜(武蔵野女子大学)、室伏武(亜細亜大学)の各氏を発言者に、竹内 恕氏(専修大学)司会の下に「図書館員の専門性と教育」についてパネル・ディスカッションがおこなわれた。

午後は前日の講演とパネル・ディスカッションをふまえた討論会につづき、ビジネス・アワー(総会の報告など)がもたれた。

第3日目(21日)は午前中、木原通夫(椋山女子学園短期大学部)、高鷲忠美(静岡女子短期大学)両氏の「新目錄規則に対応する教授法」についての発表をもとに活潑な討論

がおこなわれ、討議終了後閉会の辞がのべられ、来年の再会を約して解散した。以下に講演その他の要旨を記しておく。

講演(市川統洋氏)

プロフェッションとは、一般に高度な技術をもち、自他ともに高度な社会的地位を有していると認めているものであるといわれている。そして、プロフェッショナルリゼーションの基本的要因として、(1)高度な専門教育を通して修得される体系的な知識・技術、(2)利益の追求を主とするビジネスに対し、社会的な必要性や目的に奉仕する公共性、(3)個人としても職業団体としても、社会からある意味で自由である自律性の3点があげられ、このようなプロフェッションに就くための基準、教育資格、役割、内的特性のメカニズムなどが逐次発展していく過程がプロフェッショナルリゼーションといっよい。

現在、プロフェッションとしての確立の度合からみると、1. 確立されたプロフェッション(僧侶・医者・弁護士・法律家・大学教授) 2. ニュー・プロフェッション(科学者・エンジニア・都市プランナー・公認会計士) 3. セミ・プロフェッション(ソーシャル・ワーカー、看護婦・大学以下の教師・図書館員・薬剤師) 4. マージナル・ウッドビー・プロフェッション(marginal, would-

be profession, 経営者・病院管理者)に分けることができ、プロフェッション化のモデルとして1.をあげることができる。また、プロフェッショナル化の過程でプロフェッションの分業化(スペシャリゼーション)職業団体の保守化、独立・自営的な形よりは組織の中のプロフェッション、官僚制との交錯という傾向がみられるようになる。そして、結論的にいえば、図書館員は(1)圧倒的に組織の中のプロフェッションであり、(2)アメリカにおける格付けでいえばセミ・プロフェッションであり、(3)女性が非常に多い職場であるということができよう。

#### パネル・ディスカッション

久保輝巳氏(発言者)は、図書館員の問題調査研究委員会で検討・発表した図書館員の専門性についての考え方をもとに、主として公共図書館職員の専門性について次の点を報告した(原報告は「図書館雑誌」1974年3月号に掲載)

#### 1. 専門性の要件

(1) 利用者を知ること (2) 資料を知ること (3) 利用者と資料を結びつけること

#### 2. 専門性の維持・発展のための手段

(1) 研修 (2) 司書職制度 (3) 職場の民主化 (4) 倫理綱領

#### 3. 専門性と司書養成

図書館員として独自の仕事をこなすための基礎的な知識・技術の修得

古賀節子氏(発言者)は、日本では図書館員についての専門職の概念が確立していないこと、同氏等が昭和51年に国公立大学図書館員330名を対象にしておこなったアンケート調査結果の紹介などをのべ、専門職化の要因として、(1)高度の知識・技術 (2)公共性 (3)高い社会的評価 (4)職能団体 (5)自律性を指摘した。また、専門職化の過程には(1)仕事を専任でおこなう (2)技術修得のための養成制度 (3)職能団体の結成と維持 (4)法律・

倫理綱領の制定 の各段階があることをのべた。

深川恒喜氏(発言者)は、司書職制度の時代的推移と特徴を国立大学図書館を中心に概観し、この制度の将来に対する危機感、発展への取組みについてのべた。

室伏 武氏(発言者)は、専門職と知識・大学との関係についてのべ、図書館学教育はいかに在るべきかについて発表した。

以上の提案に対し、フロアとの間にprofessionについての考え方の相違や概念のあいまいさなどについての討議がおこなわれた。

20日午後、市川氏の講演とパネル討議をふまえ、岩猿敏生氏(関西大学)司会の下に「図書館員の専門性と教育」について討論がおこなわれ、図書館学教育全国計画委員会(仮称)を設けることが決定された。紙数の関係上その内容を割愛することを御了承頂きたい。

#### 「新目録規則に対応する教授法」

「日本目録規則」新版予備版が発表されたのを機に、今後の教授法をどうしたらよいかを考えようというのが、第3日目(21日)午前中の発表と討議であった。

中村初雄氏(元慶応義塾大学)司会の下に木原通夫氏(椋山女子学園大学短期大学部)と高鷲忠美氏(静岡女子短期大学)の発表を中心として討議がおこなわれた。

木原氏は、(1)目録法は図書館資料論・資料分類法前半・図書館活動・青少年の読書と資料などが終わってから履修するようにしてある(2)基本方針および留意点として各科目・講師間の連繫・調整、カリキュラム編成などに配慮している(3)内容的には分類・目録と分けないで、資料組織法Ⅰ・Ⅱとして指導している(4)実習的教育に力を入れ(5)応用面を考慮し、基礎的な原則を反復指導している(6)新NCRについては標目の扱い方が簡単になった点を記入の作成に導入し、指導している(7)件名目録にかなり時間をかけて指導している、などの諸点を報告した。

高鷲氏は、まず、目録および目録作業の目的、館種による使い分け、copy catalogingのミス、機械化、カード目録などに関する一般論をのべたあと、NCR新版予備版の特徴、付則の取扱ひ方、団体下部機構の省略などについてふれ、授業としては65年版と新版の双方を教え、目録・分類・件名を体系的に指導

している旨報告された。今後、自学自習を進めるため、プログラム・システムをなるべく早くとり入れたい旨強調された。

以上の木原・高鷲両氏の発表を中心として活潑な討議がおこなわれたが、残念ながら紙数の関係で割愛をする。

## 夏期研究集会に望む

### — アンケート結果より —

第10回図書館学教育研究集会が去る8月19～21日の三日間開催された機会に「今後の教育部会活動の参考資料」のための簡単なアンケートを行なったところ23人から回答があった。研究集会の在り方が中心テーマであったので、その部分を整理要約した。文中( )の中の数字は同類の意見を寄せた人数である。

#### (1) 今回の研究集会に出席した理由

新しい知見に接することができるし、情報交換のよい機会であるから(14)が圧倒的であり、今回のテーマに関心があった(10)が第2位である。その他、図書館学教育に直接関係していないが図書館学教育や図書館利用指導に関心があったから(2)という回答もあった。

#### (2) 場所、期日および期間について

場所、期日ともに大変結構あるいは概ね適当(20)であり、同じ場所・期日だと個人年間スケジュールがたてやすいとの意見が圧倒的であったが、東京開催を(1)、ときには地方開催を(1)、今回の施設は隣室の音が伝わってウルサイから明年は違う場所で(1)、期日は7月末がよい(1)などの希望も寄せられている。また、自由時間が多すぎる、もっと時間をつめれば日数を減らすか中味を増せる(1)との意見の反面、自由時間や夜の時間に色々の話ができて有意義だった(1)との意見もあった。

#### (3) 研究集会の運営について

結構でした満足しました(12)たゞし一部の役員のみが忙殺されていた(4)のが気になりま

した、研究集会運営委員会を別に設置したらどうか(1)。その他、テーマが大きすぎ時間不足だった(3)、用語の理解が各人各様で混乱があったようだ(1)、事前に予備知識をもって集会に参加できるように、あらかじめ資料配付などしておいたらどうか(2)、また、現場からの発言は有意義であるが「求人側」的発言は時間のロス(1)であるなどの意見が寄せられた。

#### (4) 今後の研究集会に対する希望

いろいろの貴重な意見・希望が寄せられたが、統計的にまとめることが出来ないで列記する。

まず、一般的、全般的希望意見

- 成果の積み重ねが可能になるような配慮を。
  - 問題点提起の為の会合も必要だろうが、的をしばって順次解決してゆきたい。
  - 教育部会であるので、教育的観点の研究集会を中心にすべき。
  - パネルのテーマはもっとしばって、意見の違いの根をはっきりさせるべき。
  - 講演をやめて討論に対する助言方式を採用したらどうか。
  - 若手の参加を促す環境を助成すべき。
  - 今後もこの研究集会を続けてほしい。
- 次に今後のテーマとしての提案
- 部会全員(たまたま集った人からではなしに)の意向の中から決めたらよい。
  - 所定科目以外に行っている演習、外国書講読、実習等のやり方について。

- 今回の申し合せにそって「図書館学教育を全国的視野で考える委員会」が設置され、明年はその活動報告に基づいて討論を。
- specific および、より具体的なものも選ぶ必要があるのでは。
- そろそろ man power project を。
- 情報科学と図書館学
- 図書館員の専門技術とはなにか。
- Japan MARC と図書館目録
- National plan の策定
- Major としての図書館学教育とMinvorとし

- ての図書館学教育
  - 図書館学は技術学か。技術学とは何か。
  - 情報社会における Needs の動き、情報分野の国際化 etc といった現実の問題を取り上げ、その中で図書館の使命、役割及び図書館学教育のあり方。
  - 年間の図書館員採用人員数と退職者数をもとにして議論の展開があっても。
- などなど、抽象的、具体的な希望意見がよせられた。(文責：黒岩)

## 昭和53年度部会総会開催

去る5月25日、図書館協会館長室で図書館学教育部会の昭和53年度総会が開かれた。出席会員12名、委任状42名であった。

まず、浜田敏郎部会長の挨拶があり、議長に渋谷嘉彦氏を選出して議事に移った。

### (1) 昭和52年度事業報告

浜田部会長より総会資料にもとづいて報告が行なわれた。(参照：図書館雑誌 Vol. 72, No. 8. p. 392)

### (2) 昭和52年度決算報告および監査報告

古賀担当幹事より別紙の決算報告が行なわれ、続いて深川監事より監査報告が行なわれ、それぞれ承認された。

### (3) 昭和53年度事業計画

幹事より①第10回研究集会は8月19～21日「図書館学教育をどうすすめるか」のメインテーマで実施予定 ②部会報は例年通り年2回刊行予定 ③来年度は役員改選期である。

前回選挙後問題提起があり、昨年総会で承認された役員選出要綱の改定作業を進め、その案を会報6号に載せた。承認を願う。④5年毎に作成している図書館学教育担当者名簿は近日中に完成の予定。この名簿を基礎に図書館学教育に関する全国計画のための調査をどういう形で進めてゆくかを検討し実施していく予定。以上4つの議題が提出された。

①の研究集会テーマについて活潑な意見交換が行なわれ、近日中に在京有志と幹事会によって検討会を開き決定することになった。

③の役員選出要綱改正案については森清氏より手続き上、疑義があるとの反対意見が出され、真剣な討議がおこなわれたが最終的には改正案を承認した。

### (4) 昭和53年度予算案

古賀幹事より説明があり別紙の通り承認された。

## < 昭和52年度 日本図書館協会教育部会決算報告 >

期間 昭和52年5月27日—昭和53年5月25日

収入

項目	収入額
繰越金	116,320
交付金	80,000
会費	125,000
雑費	190
利息	1,109
計	322,619

支出

項目	支出額	備考
会合費	44,800	食事代、交通費
通信費	27,200	
印刷費	82,290	会報(4,5,6号)
消耗品費	3,150	カード、印鑑
予備費	3,595	振込手数料
計	161,035	

繰越金 161,584

収入		
項 目	予 算 額	
繰 越 金	161,584	
交 付 金	80,000	
会 費	100,000	
計	341,584	

支出		
項 目	支 出 額	備 考
会 合 費	70,000	幹事交通費
通 信 費	30,000	
印 刷 費	100,000	会報
選 挙 費	70,000	
消 耗 品 費	5,000	事務用品
予 備 費	66,584	研究集会
計	341,584	

## 会 員 消 息

安部豊巳氏はこの程東京女子大学短期大学

部図書館から別府大学文学部へ転任、図書館学教育に従事されることになりました。御健闘を祈ります。

## 新 入 会 員

次の方々が当部会に入会されました。心から歓迎するとともに、今後の御活躍を期待します。(敬称略)

京藤松子(米国大使館国際交換局アメリカンセンター)

鬼頭当子(国際基督教大学図書館)

藤丸 昭(徳島県立図書館)

阪田蓉子(国際基督教大学図書館)

石井 敦(東洋大学)

加藤一英(別府大学)

岡内重信(実践女子大学)

後藤二郎(文部省初等中等教育局)

井上 如(東京大学情報・図書館学研究センター)

中村泰正(山形女子短期大学)

川崎文策(鈴峯女子短期大学図書館)

大野靱子(聖心女子大学)

尾原淳夫(甲南大学)

平湯文夫(純心女子短期大学)

## 会 費 納 入 者 芳 名

下記の方々からそれぞれ会費を納入していただきました。御芳名を記し、受領証に代えさせていただきます。なお、行き違いがありましたら御一報下さい。次号で掲載させていただきます。(敬称略)

昭和50年～52年度

黒坂東一郎, 黒田一之

昭和52年度

伊藤 順 埜上 衛, 植村 清, 中沢 保, 佐伯登志子, 岡田 温, 小林 胖, 高鷲忠美 戸田光昭, 山崎武雄

昭和53年度

黒坂東一郎, 黒木 努, 高橋重臣, 深井輝子, 古賀節子, 今 まど子, 黒岩高明, 深川恒喜, 裏田武夫, 渋谷嘉彦, 増井照夫, 菅原 通,

宮内美智子, 浜崎邦子, 工 一夫, 佐野大和, 戸田光昭, 宮田平三, 青木次彦, 朝日奈大作, 安部豊巳, 石塚栄二, 石塚正成, 岩猿敏生, 小川鯉一, 梶井重雄, 角冢文雄, 菊池しづ子, 木田橋喜代慎, 木原通夫, 後藤純郎, 菅原春雄, 高宮秀夫, 高鷲忠美, 竹内 慧, 中沢 保, 中嶋正夫, 中村初雄, 埜上 衛, 浜田敏郎, 平井祥雲, 細野公男, 丸本郁子, 室伏 武, 和田弘名, 渡辺信一, 伊藤 順, 横山進一, 京藤松子, 鬼頭当子, 藤丸 昭, 阪田蓉子, 石井 敦, 加藤一英, 岡内重信, 後藤二郎, 井上 如, 中村泰正, 川崎文策, 大野靱子, 尾原淳夫, 平湯文夫

昭和53～56年度

吉井良顕

昭和54年度

亀田 弘

## 幹事会記録

1978年5月3日(10回)

出席者：浜田、北嶋、黒岩、古賀、今、高橋  
総会の準備について

52年度の事業、決算、監査報告および  
53年度の事業計画、予算案の内容検討と  
それらの報告、説明分担を相談。

研究集会の計画について

8月19～21日、人材開発センター富士研  
修所で「図書館学教育をどうすすめるか」  
(仮題)で実施することにした。

1978年6月12日(臨時)

出席者：浜田、北嶋、黒岩、古賀、深川、渋谷

5月の総会における深川提案による有志を  
交えての研究集会テーマ検討会を開く。そ  
の結果「専門職としての図書館員の教育」  
と「目録教授法」の二本立とする。講師、  
発表者などの候補検討も行なった。

1978年6月15日(11回)

出席者：浜田、北嶋、黒岩、古賀

研究集会について

6月12日の在京有志を交えた検討の結果  
にもとづいて、テーマ、日程および講師、

### 会費をお納め下さい

部会員皆さんの御協力により部会費が順調  
に納入されていますが、未納入の方がかなり

### 編集後記

会報第7号をお届けします。今号は主とし  
て去る8月19～21日に富士吉田市でおこなわ  
れた図書館学教育研究集会関係の記事を中心  
に編集しました。会報のため研究集会の記録  
をまとめ、お送り下さった細野公男・京藤松子  
・渋谷嘉彦・渡辺信一・中沢 保・菊池しづ  
子の各氏に厚くお礼申し上げますとともに、紙

発言者などを決定。7月上旬に案内状発  
送することになった。

1978年8月7日(12回)

出席者：浜田、古賀

研究集会について

当日の司会者、記録者などの決定と事務  
手続などの検討。

1978年9月28日(13回)

出席者：浜田、北嶋、黒岩、古賀、今

夏期研究集会の報告—古賀

46名の参加で盛会であった。今後のテ  
ーマとして「図書館学教育・図書館員養成  
問題を全国的視野で考える委員会」の結  
成に賛意があった。記録の処理は進行中。

会報7号の編集について—北嶋

研究集会記録、アンケート、総会記録、  
幹事会記録などを記事として10月中に刊  
行予定。そのため執筆分担。

図書館学教育全国計画委員会(仮称)につ  
いて

夏期研究集会で賛意のあった標記の委員  
会をどのような形で発足させるか、また  
調査研究の費用をどうするかなどの検討。

その他

今幹事がIFLA総会に出席しての報告。

居ります。明年度は特に役員改選期に当るた  
め名簿を整備する必要がありますので未納入  
の方は至納お納め下さい

数の関係で全文を掲載できなかったことをお  
詫び致します。

この研究集会第2日目における決定にもとづ  
き、図書館学教育全国計画委員会(仮称)が  
発足しました。次号では委員会の動きを多少  
ともに御報告できると思います。

向寒の折、各位の御自愛を祈ります。

(北嶋)